

## 提出意見とそれに対する栃木県の考え方

「第二期県立高等学校再編計画（案）」に対する意見募集を行った結果、地区別説明会での御発言や御意見の提出も含め、384名の方から計455件の御意見を頂きました。貴重な御意見ありがとうございました。

提出された御意見を十分検討の上、それに対する県の考え方を次のとおりまとめました。

なお、類似の意見については、内容ごとにまとめさせていただきました。

項 目	意 見 の 内 容	意見に対する考え方
<b>1 全日制高校の規模と配置の適正化</b>		
(1) 規模の特例 (特例校) [23件]	<p>県の周縁部の学校をまずは特例校としてでも残す案に賛成する。</p> <p>魅力と活力ある学校をつくっていくためには、将来的には特例校の統合はやむを得ない。</p> <p>子どもの通学の問題や高校が地域活性化へ果たす役割などを考慮し、特例校を将来にわたり存続させてほしい。</p> <p>特例校に対して、十分な予算措置や施設の整備、教員の加配などの支援をお願いしたい。</p> <p>スクールバスの導入や交通費の補助など、市や県には通学しやすい環境を整備してほしい。</p> <p>学級定員を40人から30人や35人などに減ずることで学級数を維持できないか。</p> <p>県の周縁部の子どもたちが県立高校に行くチャンスを増やすために、二次募集を行ってはどうか。</p>	<p>高校には、生徒同士の切磋琢磨などを通して、確かな学力や豊かな人間性等を育むことが求められています。そのため、本県では1学年4学級から8学級を適正規模としました。</p> <p>一方で、地域を支える人材育成への期待が高まっていることから、本計画では、県の周縁部の一部の高校において、適正規模未満でも特例校として維持することとしました。</p> <p>なお、生徒の確保が困難になった場合には、教育の質の向上を図る観点から統合等について地元地域と十分に協議し、その方向性を決めて参ります。</p> <p>各特例校に設置する学校運営協議会の御意見も参考としながら、より一層魅力ある学校となるよう支援に努めて参ります。</p> <p>現在も一部の市町において、交通費の補助などの支援を頂いているところですが、今後とも、地域や学校、PTAなどとも連携を図りながら、通学に係る費用負担の軽減や利便性を高めるための検討をして参ります。</p> <p>公立高校における教員数は、法律により、学級数ではなく全学年の生徒定員の総数で決まることとなっています。このため、生徒定員の総数減は、教員数の削減となり、生徒同士の切磋琢磨の機会の減少だけでなく、生徒の多様なニーズに沿った科目の設置が困難となるなど、教育の質の低下につながることから、学級定員削減による対応は困難と考えています。</p> <p>本県では、全日制の特色選抜と一般選抜、定時制、通信制の入学者選抜を重ねる日程で実施することで県立高校を複数回受検できる機会を確保しているところです。</p>

	<p>馬頭高校において、水産科だけでなく、普通科でも全国募集をしてほしい。</p>	<p>全国から生徒を集めるためには、学校や学科の魅力と特色、そして、下宿先など地域における受入体制の充実が必要となります。地域とも連携を図りながら、全国募集の可能性について検討して参ります。</p>
<p>(2)学校の統合 ○足利高校と足利女子高校の統合・共学化 [297件]</p>	<p>統合に賛成である。進学校は6学級程度が望ましい。魅力ある学校づくりを進め、他地区に負けない高校にしてほしい。</p> <p>学級減となれば教員数も減り、科目ごとの専門性の高い教員の配置が困難になる。統合により、全科目で専門性の高い教員による授業を受けられるようにしてほしい。</p> <p>足利高校のスーパーサイエンスハイスクールの指定は、女子にとっても魅力的である。各校の特色ある教育が、性の違いによって受けられないことがないよう共学化してほしい。</p> <p>統合共学化は当然のことである。高校生という多感な時期だからこそ、男女が共に過ごし、お互いを正しく理解し合える環境とすべきである。</p> <p>少子化や男女共同参画社会の推進など時代の流れを考えると、両校の統合・共学化はやむを得ない。今を生きる子どもたちがより良い高校生活を送れることを優先してほしい。</p> <p>伝統校の統合には反対である。伝統の校歌や制服は足利女子高校卒業生や生徒の誇りである。先輩方から受け継いだ校風、歴史は何ものにも代え難いものである。</p> <p>男女別学校には、異性の目を気にせず、何事にも集中できたり、個性を発揮できたりするなどの良さがある。</p> <p>女子校における女子教育は、現代社会においても大変重要である。また、女子校で学ぶことにより、何事も男性に頼らず自立心を持ち、たくましく成長できる。</p> <p>安足地区から男女別学校の選択肢が無くなってしまうのは問題である。</p>	<p>大学進学を目指す生徒が多い普通科高校は、多様な進学希望に対応できる教育課程を編成するために必要な、各教科・科目の専門性に配慮した教員の配置ができるよう、ある程度、大きな学校規模の確保に努めることが必要と考えています。</p> <p>足利高校と足利女子高校は、地域の方々から、いわゆる進学校としての役割を期待されていますが、今後、安足地区の中学校卒業生数の減少、とりわけ足利市内の女子の減少に伴い、両校とも現在の5学級規模の維持は困難な見込みです。そして、小規模化により、各教科・科目の専門性に配慮した教員の配置や、生徒同士の切磋琢磨等の面で課題が生じ、進学校としての期待に、十分に応えられなくなることが懸念されます。</p> <p>これまで、両校は、地域の方々から、別学校として培ってきた伝統や特色、教育の成果などについて信頼を得てきたところではありますが、将来を担うこれからの子どもたちが、それぞれの進路希望を実現できるよう、より望ましい教育環境づくりを進めることが必要と判断し、両校を統合して、6学級規模程度の学校規模を確保することとしましたので御理解願います。</p> <p>また、統合に当たっては、生徒の意欲や能力を高め、進路実現を図る観点から、興味・関心や進路希望等に応じた科目を選択し学習できる単位制を導入するとともに、新校舎等を整備するなど、地域の期待に応える魅力と活力ある学校づくりに努めて参ります。</p>

<p>足利女子高校は定員割れをしていないにもかかわらず、統合となるのは理解できない。女子校のニーズは今後も高いものと推測される。</p>	
<p>「進学校は男女別学」という考えが根強い地域である。統合・共学化することで、他市や他県への流出に拍車がかかるのではないか。</p>	
<p>両校を存続させるために、まずは両校の魅力化を図るべきである。</p>	
<p>両校を4学級で維持することはできないか。小規模化を前向きに捉え、少人数教育を推進すべきである。</p>	
<p>両校を維持したまま、教員が2校を兼務し、行き来する仕組みは考えられないか。</p>	<p>専門性の高い教員が常駐できなくなることから、生徒の質問への対応や部活動の指導の面などで課題が生じてしまうほか、教員が生徒と向き合う時間が減少するなど、生徒にとっても不利益が生じるとともに、時間割の編成も困難になると考えています。</p> <p>こうした様々な面で課題があることから、実施は困難と考えています。</p>
<p>統合しても、男子部、女子部として男女を分けられないか。</p>	<p>男子部、女子部とするため、男女別募集とした場合は、入試において男女で合格ラインが異なる不公平が生じてしまいます。また、男女一括募集とした場合は入学者数が必ずしも男女均等にならないため、毎年、男女別にクラス編成することは困難になります。さらに、2・3年次に進路希望別でクラス編成する際にも支障が生じると考えています。</p> <p>こうした様々な面で課題があることから、実施は困難と考えており、全国的にも男子部、女子部に分けている公立高校はありません。</p>
<p>両校とも伝統ある学校であり、統合後も各校の伝統の存続を望む。</p>	<p>今後、同窓会を含む両校の学校関係者や地域の関係者などで組織する新校設立準備委員会において、伝統や校風など学校の尊厳に対して十分に配慮しながら、特色ある教育活動や、校名、校歌、制服、学校行事など、新しい学校づくりについて検討して参ります。</p>
<p>統合校では、両校の伝統を尊重しながらも、入学した生徒達が更に自分達で新しい伝統、校風をつくってほしい。男女共にリーダーシップを取れる校風になると良い。</p>	
<p>足利女子高校の制服だけは残してほしい。統合にあたり、一番譲れない条件である。</p>	

<p>統合新校の制服は、昔の制服にこだわらず、無くすことも含め、新しくすることを望む。</p>	
<p>烏山高校と烏山女子高校の統合時の問題点や良かった点についても踏まえてほしい。</p>	<p>烏山高校と烏山女子高校の統合のように、両校の2・3年生が統合新校に合流しない場合は、一方の高校では、1年生が入学してこないため、年々、生徒数が減少し、教員数も減少してしまいます。</p>
<p>統合時に両校の2・3年生も一斉統合をするということであり、在学中に色々な変化を経験することに保護者として不安がある。</p>	<p>一斉統合することで、そうした課題を解消できるほか、上級生に男子と女子がいるので、新入生も男女を問わず入学しやすくなったり、両校の伝統をより継承しながら新たな学校づくりを進めていけたりする利点もあると考えています。</p> <p>統合前から、学校行事や部活動等、様々な場面で交流の機会をつくるとともに、統合後も、できるだけ落ち着いた学校生活が送れるよう、教室配置等に留意して参りますので、御理解願います。</p>
<p>校舎の老朽化が進んでいるのであれば、新築した方が良い。</p>	<p>現在の両校の校舎は、老朽化が進んでいることに加え、6学級規模程度の単位制高校に必要な教室数等を確保できないことなどから、新校舎等を整備することとしました。</p>
<p>新校舎を建設するのは費用の無駄である。今のままで良い。建設の間、足利高校に設置する仮校舎や女子トイレも無駄になる。</p>	<p>駅付近の交通至便地に、高校設置に必要なまとまった土地を新たに確保することは極めて困難と考えています。</p>
<p>新校舎は、足利女子高校の敷地ではなく、もっと交通の便の良い駅の近くにしたい方がよい。</p>	<p>このため、新校舎等を整備する場所は、交通の利便性等を考慮し、足利女子高校の校地としたところです。</p>
<p>新校舎は利便性を一番に考えると足利女子高校が良い。</p>	<p>また、平成34年度の統合までに新校舎等を整備するためには、生徒が学校にいながら工事を進める必要がありますが、運動場が使えなくなり、体育や部活動等に支障が生じるほか、工事中の騒音や安全面等で課題があります。</p>
<p>新校舎完成までの間、足利高校の校舎を使用するとのことだが、その間、生徒も集まらないのではないのか。</p>	<p>したがって、統合当初は足利高校の校舎を使用し、その間に足利女子高校の校地において新校舎等の整備を進め、平成36年度以降、新校舎等の落成後に、移転する計画としましたので御理解願います。</p>
<p>新校の生徒に負担が掛からないよう、新校舎は平成34年度の統合までに整備すべきである。</p>	

<p>足利女子高校の狭い敷地で男女が共に勉学や運動を行うのは無理である。</p>	<p>足利女子高校の校地において、より広い運動場を確保できるよう、新校舎の配置等を検討して参ります。</p>
<p>統合した場合、両校の敷地を上手く活用してほしい。</p>	<p>また、足利高校の運動場や体育館も使用することから、移動の負担はありますが、男女の部活動が余裕のあるスペースで実施できると考えています。</p>
<p>統合後、足利高校の校庭を部活動等で利用する計画だが、時間効率の面で課題がある。</p>	<p>現在、足利市内には全日制高校が5校ありますが、学科や卒業生の進路状況などに、それぞれ特長があります。</p>
<p>少子化で高校の定員割れが問題となり学校の統合が必要なのであれば、歴史の浅い高校から整理すれば良い。</p>	<p>足利高校や足利女子高校は、大学等への進学者が大半を占めていますが、足利工業高校や足利清風高校の商業科は就職者の割合が高い状況です。また、足利清風高校の普通科や足利南高校では、大学等への進学者だけでなく、専門学校等への進学者や就職者など多様な進路になっています。こうした進路状況等を踏まえ、足利南高校は多様な科目から選択して学べる総合学科、足利清風高校は普通科でも商業科目を学べる総合選択制高校という特色ある学校・学科としています。</p> <p>安足地区における学校の統合に当たっては、こうした各校の特長を踏まえ、生徒の多様化への対応の観点も考慮して、学科や卒業生の進路状況において同様の特長を持つ足利高校と足利女子高校を統合することとしましたので御理解願います。</p>
<p>定員割れをしている足利高校が足利清風高校や足利工業高校と統合すれば良い。</p>	<p>これまでも地区別説明会や保護者説明会のほか、関係市町・団体等への個別の説明などを通じて、理解促進と意見聴取に努めてきたところです。</p> <p>今後とも、あらゆる機会を通して、県民の皆さまの理解と協力が得られるよう取り組んで参ります。</p>
<p>統合については、十分な議論が必要である。県全体や地元、将来の子どもたちのことを考え、話し合いを重ねてほしい。</p>	

<b>(3) 男女別学校の共学化</b>		
<p>①共学化全般 [5件]</p>	<p>男女共学化に賛成である。小学校、中学校のように共学で学ぶことが最も自然である。推進してほしい。</p> <p>男女別学校の共学化は、寂しい限りだが、時代の流れで仕方がない。</p> <p>男女別学校には、別学校にしかない伝統、校風、文化がある。別学校も存在して良い。</p> <p>共学化ありきの方向性には危惧する。共学校、別学校、中高一貫教育校、特例校、定時制など、多様な選択肢があることを願う。県としては、将来的に全校共学化とする構想なのか。</p> <p>別学校を共学化しても、在籍者の男女比に片寄りが生じるのではないか。</p>	<p>男女別学校の共学化については、共学の考え方に賛成する県民世論だけでなく、共学校と別学校の共存を望む県民世論にも配慮する必要があると考えています。</p> <p>また、それぞれの別学校が置かれている状況は様々であり、全ての別学校を一律に共学化することには課題があると考えています。このため、第二期計画においては、各高校や地域の実情等に応じて共学化を行うこととしました。</p> <p>共学校では、学校や学科の特色などにより在籍者の男女比に片寄りが生じる場合もありますが、公平な入試の結果であり、特に課題はないものと考えています。</p>
<p>②宇都宮中央女子高校の共学化 [31件]</p>	<p>宇都宮地区の男女別募集定員の片寄りが是正されることになり非常に良かった。今まで放置されてきたことの方が問題である。</p> <p>共学化に賛成である。宇都宮市に、男子校、女子校、中高一貫教育校と並ぶ、共学のトップ進学校が必要である。</p> <p>母校が無くなるようで寂しいが、共学化も時代の流れと考える。本県一の共学校となるよう、県を挙げて学校を応援してほしい。</p> <p>伝統は引き継ぐだけでなく、新たにつくり続けるものである。宇都宮中央女子高校もこれまでの良き伝統を踏襲しながら共学化という現代のニーズに適合すれば更なる発展が期待できる。</p> <p>宇都宮地区の男女別募集定員の片寄りの是正については必要ない。現在では、学区も廃止されており、選択の自由は十分に確保されている。また、私立高校もたくさんある。</p> <p>伝統校の再編には反対である。再編してしまえば、新たに出来る学校は伝統校では無くなってしまう。</p>	<p>宇都宮地区は、男子校1校に対し、女子校が2校あり、男女別募集定員に片寄りが生じており、平成27年度の有識者会議から「宇都宮など男女別募集定員の比率に片寄りのある地域は、そのバランスを整えることが必要」との提言を頂いたほか、県民の皆さまからの意見募集等においても片寄りの是正を求める意見を頂きました。</p> <p>また、有識者会議からは、大学進学を目指す生徒が多い高校については、進路希望等に応じた多様な科目の開設や学習習熟度別少人数授業の充実が可能となる単位制を導入することが望ましいとの提言も頂きました。</p> <p>これらの提言や意見を踏まえ、宇都宮中央女子高校を共学化するとともに、単位制を導入することとしました。</p> <p>共学化及び単位制の導入に当たっては、これまで培ってきた伝統や特色、教育の成果を十分に継承しながら、魅力と活力ある学校づくりに努めて参りたいと考えています。</p>

<p>男女別学校の方が勉強に集中できる環境であるのは明らかである。また、女子校の共学化により、女性リーダー育成など女子の人間形成の場が無くなるのではないか。</p>	
<p>男女別募集定員の片寄りを是正するために、宇都宮東高校を男子校に戻したり、新たに男子校をつくったりしてはどうか。</p>	<p>宇都宮東高校は中高一貫教育を行う特色ある学校であることから、男女に入学の機会がある共学が望ましいと考えています。</p>
<p>共学校を男女別募集とし、男子の募集定員を増やすことによって、男女別募集定員の片寄りを是正できないか。</p>	<p>また、生徒数の減少が見込まれている中、新たに男子校を設置することは困難と考えています。</p> <p>共学校を男女別募集とし、男子の定員を増やすことについては、女子の不公平感が高まることが懸念されるほか、入試において男女で合格ラインが異なる不公平も生じるなど課題が多く困難と考えています。</p>
<p>共学化は良いが、男女共に活発に部活動等を行える運動場や体育館は確保できるのか。</p>	<p>宇都宮中央女子高校より運動場が狭い共学校が13校ありますが、各校とも男女の屋外運動部が、練習方法等を工夫しながら活動しています。また、多くの共学校では宇都宮中央女子高校と同じ体育館2棟で男女の屋内運動部が活動しています。</p> <p>これらのことから、宇都宮中央女子高校においても、男女の部活動への対応は可能と考えています。</p>
<p>宇都宮地区には宇都宮女子高校もあるが、なぜ、宇都宮中央女子高校が共学化に選ばれたのか選定基準が分からない。</p>	<p>共学化に必要な運動場の面積や県民の皆様などから頂いた御意見等を参考として、宇都宮中央女子高校を選定しました。</p>
<p>共学化をすると、校舎や校庭の改修が必要となり、財政的な負担も大きい。</p>	<p>男子トイレや武道場など共学化に伴い必要となる整備を行うものであり、御理解願います。</p>
<p>共学化した新校の校名などは、どのように決まるのか。</p>	<p>新校の校名や校章、校歌、制服などについては、同窓会を含む学校関係者や地域の関係者などで組織する新校設立準備委員会において検討して参ります。</p>
<p>宇都宮中央女子高校は校名を何度も変更しているため、「中央」という名前は残してほしい。</p>	
<p>宇都宮中央女子高校の特色である総合家庭科を今後も存続させてほしい。</p>	<p>総合家庭科については、共学化後も引き続き設置します。</p>

<p>(4) 学科の構成と配置の適正化 [15件]</p>	<p>普通系学科と職業系専門学科の比率を7:3で維持することについて十分理解できる。</p>	<p>普通系学科と職業系専門学科の募集定員の割合については、中学生の進路希望が7:3である状況等から判断し、引き続き現在の7:3を概ね維持して参ります。</p>
	<p>職業系専門高校においては、より専門性のある学校となるよう期待する。</p>	<p>職業系専門高校においては、産業界のニーズの変化に対応した実践的な教育を通して、専門的知識や技能の基礎を身に付けさせていくことが重要であり、学校間、学科間の連携や企業等との連携の推進を図るなど、教育内容の更なる充実に努めて参ります。</p>
	<p>少子化の流れの中で、職業系専門学科の統合や改編は仕方がない。</p>	<p>職業系専門学科の改編や閉科については、中学生の進路希望状況や地域のニーズ、通学圏に配慮しながら行って参ります。また、その際、コース制の導入や選択科目を設置することで、引き続き、生徒や地域の多様なニーズに対応して参ります。</p>
	<p>足利清風高校の情報処理科を閉科することは、地域の中学生の選択肢を狭めることになる。</p>	<p>現在、下都賀地区には福祉科が設置されていませんが、小山城南高校の福祉系列を充実させることで、基礎的な知識・技能の修得とともに「介護職員初任者研修修了資格」の取得により介護人材の育成も図って参ります。</p> <p>また、福祉系列の充実と併せ、全ての系列の見直しも図ることで、男女を問わず、子どもたちや地域の多様なニーズに応えられる魅力ある学校づくりを進めて参ります。</p>
	<p>小山城南高校の福祉系列を充実させた場合、総合学科の特色やバランスが崩れる心配がある。また、男子の入学者が減少する可能性がある。</p>	<p>今市高校の総合学科では、人文・社会系列や自然科学系列も設置され、主体的な科目の選択により普通科と同様、又はそれ以上に進路目標の実現に適した科目選択が可能となっています。その他にも情報や商業、家庭や保育、芸術など100科目にも及ぶ多彩な科目が用意され、多様な生徒のニーズに対応しています。</p> <p>このような総合学科の特色について、中学生やその保護者、地域の方々の理解が促進されるよう、更なる情報発信に努めて参ります。</p>
	<p>今市高校の総合学科を普通科へ戻してほしい。地元の保護者には普通科のニーズがある。</p>	<p>今後の教育施策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
	<p>今市高校の総合学科は中学生にとって魅力的であるので、総合学科のまま維持してほしい。</p>	
	<p>宇都宮北高校の普通科の一部を国際科に転換し特色化を図ってはどうか。</p>	
	<p>小山高校の数理科学科は、総合学科へ転換すべきである。</p>	
	<p>真岡北陵高校の農業機械科は、他科へ転換するか、廃止すべきである。</p>	

	<p>小山南高校のスポーツ科は、1学級に減らし、福祉系の学科へ転換すべきである。</p> <p>高根沢高校の商業科は、学級減をして福祉系の学科へ転換すべきである。</p> <p>足利女子高校の家政科を復活させてほしい。</p>	<p>職業系専門学科の設置については、その学習機会が確保されるよう通学圏にも配慮しながら全県的な視点で配置しています。安足地区において家庭科は、佐野松桜高校に設置しています。</p>
<b>2 特色化の推進</b>		
(1) 単位制高校 [19件]	<p>単位制は少人数指導や選択科目の幅が拡大するなど魅力的な制度であり、積極的に導入してほしい。</p>	<p>単位制の導入に伴い、教員が加配されるため、学年制よりも生徒の興味・関心や進路希望等に応じた多様な科目の開設や、学習習熟度別少人数学習の充実が可能となります。そうした個に応じたきめ細かな教育活動の展開が、生徒一人一人の進路目標の実現につながると考えています。</p>
	<p>他県の単位制の例を見ても、クラスや学年、必修科目や選択科目があり、学年制と変わらない。単位制を導入するメリットはないのではないか。</p>	
	<p>単位制の導入で進学実績が伸びるのか疑問である。</p>	
	<p>単位制において、生徒が進路目標に応じた科目を選択するのは困難なのではないか。科目が極端に片寄るおそれもある。高校時代には、高校生として必要な知識を幅広く学ぶべきである。</p>	
	<p>単位制ではクラスという概念がなく、授業ごとに教室が変わるなど、長い時間を一緒に過ごす友達が出来にくい環境である。コミュニケーションの面で不安である。</p>	
	<p>馬頭高校の単位制は、多様な学びに重点とあるが、進学のニーズもあるのではないかと。</p>	
(2) コミュニティ・スクール [7件]	<p>コミュニティ・スクールにおいては、魅力ある学科の設立や地域の特性を生かすために地域住民の意見が重要である。</p>	<p>生徒ができるだけ早期に目的意識を明確化し、適切な科目選択ができるよう、ガイダンス機能を充実して参ります。</p> <p>単位制高校においても、ホームルームを設置し、クラス担任による計画的、継続的な指導、援助のもと、集団での活動を通し、望ましい人間関係の形成や社会性の涵養に努めて参ります。</p> <p>多様な学びに重点を置いた単位制高校では、大学等への進学から就職まで、幅広い進路にも対応できる教育課程を編成して参ります。</p>
	<p>コミュニティ・スクールについての理解を深めるため、委員の研修等が必要である。</p>	
		<p>コミュニティ・スクールにおいては、地域住民や保護者などを学校運営協議会の委員とし、その意見を学校運営や教育活動に反映させるとともに、地域の教育力を積極的に活用しながら、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めて参ります。</p> <p>委員の方々には、コミュニティ・スクールについての理解を深めていただけるよう研修会や先進校の視察などの機会を設けたいと考えています。</p>

	<p>中学生の高校選択の参考となるよう、学校運営に関する方向性を早い段階で示す必要がある。</p>	<p>各校の協議会において学校運営の基本方針が承認された後、速やかに学校の特色等について広報できるよう努めて参ります。</p>
(3) その他 [2件]	<p>「学び直し」を一層充実させるなど、特色ある学校づくりを進めてほしい。</p>	<p>生徒一人一人の学ぶ意欲や目的意識を高め、個性や能力の一層の伸長を図るため、生徒の多様な学習ニーズに対応した学習選択肢を提供するなど、各校の特色化を推進して参ります。</p>
	<p>周辺部の高校に中高一貫教育校を導入し、生徒の都市部への流出を食い止められないか。</p>	<p>新たな中高一貫教育校の設置については、生徒数が減少していく中で、県立中学校の新設が他の公私立中学校に与える影響などを考慮し、第二期計画では行わないこととしています。</p>
<b>3 定時制・通信制の規模と配置の適正化</b>		
(1) 定時制高校 [9件]	<p>定時制の再編では、3年で卒業できる制度を導入するなど高校の魅力化が図られている。</p>	<p>定時制は、より柔軟な学習時間帯とするなど、多様な生徒のニーズに応えられる学習環境の整備や社会的自立に向けた支援の充実に努めて参ります。</p>
	<p>午後部の設置や夕夜間定時制など、定時制高校の思い切った転換は、不登校などの問題を抱える子どもを持つ保護者にとって大いに受け入れられる。</p>	
	<p>県北地域の定時制の記載がないが、昼夜間定時制の設置など、再編が必要ではないか。</p>	
	<p>定時制の専用教室の確保は喫緊の課題であり、他の県有施設の利用なども含め、何らかの方法で確保してほしい。</p>	
	<p>職業系専門高校の定時制を普通科に改編するなら、普通科高校に移設してはどうか。</p>	<p>県北地区の2校の夜間定時制においては、専用教室の確保の面などで課題があるため、第二期計画では、現状維持としていますが、引き続き、全日制の施設や教室、他の県有施設などの使用状況を踏まえるとともに、生徒のニーズや通学圏を考慮しながら、定時制の規模や配置の適正化と併せて、午後と夜間に授業を行う二部制定時制など多様な生徒のニーズに応えられる教育環境の整備について検討して参ります。</p>
(2) 通信制高校 [2件]	<p>周辺地域の高校に、空き教室を利用するなどして、通信制を設置できないか。</p>	<p>職業系専門高校の定時制2校を普通科に転換するとともに、工業や商業など職業に関する科目も開設することとしましたが、その際、引き続き、職業系専門高校に併置することで、商業や工業などの施設設備を有効活用し、より一層、効果的な教育活動が実施できると考えています。</p>
		<p>通信制高校については、スクーリング等に通学しやすい環境となるよう学校の配置や協力校の設置などについて研究を進めて参ります。</p>

<p>4 計画の策定について [21件]</p>	<p>計画の策定に至るまでのプロセスが不透明かつ性急過ぎるように感じる。</p> <p>第二期計画は、第一期の計画の評価、検証を十分に行ってから、策定すべきである。</p> <p>計画策定の際は、他県の状況も注視しながら、広く議論を重ねていく姿勢を堅持してほしい。</p> <p>計画を策定するに当たり、他県や全国と比べることなく、栃木県独自の姿を見せてほしい。</p> <p>一番の当事者である地域の高校生、中学生、中学の教員の意見を大事にすべきである。</p> <p>地区別説明会の周知期間が短く、回数も少なかったのではないかと。計画案の説明を聞きたい保護者は多くいると思う。</p> <p>人口減少が大きな問題であることを実感してもらい、高校再編の必要性をもっと訴えて納得を得る努力をしてほしい。</p>	<p>再編計画を策定するに当たっては、有識者による「県立高校再編に関する検討会議」を設置し、平成26年度に第一期再編計画の成果と課題について検証を行っていただくとともに、27年度には、その結果や全国の状況等も参考としながら、本県における今後の望ましい県立高校の在り方について提言を取りまとめていただきました。</p> <p>県教育委員会では、男女共学・別学についての県政世論調査や中学生、高校生及びその保護者へのアンケート調査を実施したほか、28年度には、県民意見の募集と併せ、「高校再編県民フォーラム」を開催し、直接意見交換を行いました。また、全ての県立高校及び市町等を訪問し、意見の聴取に努めて参りました。そして、提言とともに、頂いた御意見も参考としながら検討を重ね、本年7月に、「第二期県立高等学校再編計画（案）」を公表しました。</p> <p>計画（案）公表後も、旧学区ごとに説明会を実施し県民の皆さまと意見交換を行ったほか、パブリック・コメント制度による意見募集、さらには、小中学生の保護者向け説明会や関係団体との意見交換なども行って参りました。</p> <p>計画決定後も、計画普及用のリーフレットを作成し配布するほか、要望に応じ個別に説明会を開催するなどして、計画内容を広く県民の皆さまに御理解いただけるよう努めて参ります。</p>
<p>5 その他 [24件]</p>	<p>本県の教育の質を高めるために全力を尽くしてほしい。</p>	<p>第二期再編計画に基づき、魅力と活力ある県立高校づくりを進めるなど、本県教育行政の基本方向を示す「栃木県教育振興基本計画2020－教育ビジョンとちぎ－」に掲げた基本理念や基本目標の実現を目指し、市町教育委員会をはじめとする教育関係者はもとより、県民の皆さまの御理解と御協力を頂きながら、とちぎの教育の更なる充実に努めて参ります。</p>

<p>進学実績を向上させるために、教員の質を高めるとともに、熱意のある教員を配置してほしい。</p>	<p>「学び続ける教員」を目指し、教職経験年数に応じた研修の更なる充実・改善を図るなど、実践的指導力の向上に努めて参ります。</p> <p>また、教員の養成・採用・研修に一体的に取り組むことにより、本県教員の資質・能力の向上に努めるとともに適材を適所に配置するよう努めて参ります。</p>
<p>県は、教育にもっと予算を掛けるべきである。</p>	<p>時代の要請や生徒の多様な学習ニーズに沿った教育環境の質的向上が図れるよう、教育予算の確保については、今後とも努力して参ります。</p>
<p>今回の再編を機に、施設・設備の整備も行ってほしい。</p>	<p>再編を行う上で必要な予算の確保については、今後とも努力して参ります。</p>
<p>閉校となった高校の施設をうまく利活用してほしい。</p>	<p>閉校となった高校の施設については、跡地の利活用を希望した地元市町に譲渡しているところです。</p> <p>譲渡を受けた地元市町においては、施設を利活用するほか、跡地開発を行うなど、有効に活用していただいています。</p>
<p>統合校の記念展示会や、校歌を披露する行事の開催、記念本の製作などを行ってほしい。</p>	<p>これまでの統合においても、閉校記念誌の発行や、新校に旧校の資料を展示する資料室の設置をしています。</p> <p>今後も、同窓生らが母校の歴史を振り返られるようにするとともに、新校の生徒らとその歴史と伝統の継承者としての意識高揚が図れるよう努めて参ります。</p>
<p>公立高校の定員削減だけでなく、私立高校の定員削減も行う必要があるのではないか。</p>	<p>私立高校の募集定員については、各校が独自に定めており、教育委員会の所管外となります。</p> <p>今後も、公立高校と私立高校で双方の特長を發揮しながら協調と競争のもとで切磋琢磨し、本県の高校教育の一層の充実を図って参ります。</p>